

## **圏域の将来像 骨子**

### **1. 圏域の特性・強み**

- 三方を囲む海・台地・森林などの自然環境と豊富な農林水産資源
- 函館市における中核的な医療機能，商業機能，その他行政および民間分野における都市機能の集積
- 陸，海，空の広域交通ネットワーク（新幹線・JR・港・空港）
- 通勤・通学・通院・買物など日常生活における圏域の深いつながり

### **2. 直面する課題・危機認識**

- 圏域全体での少子高齢化・人口減少の進行
- 地域コミュニティの維持や地域経済の衰退
- 地域間の医療環境の格差拡大
- 進学・就職等による札幌圏や首都圏への転出
- 圏域内相互での移動を容易にするための二次交通の整備等
- 社会・経済情勢の変化や住民ニーズの多様化と，行政が担う役割の高度化・複雑化

### **3. 目指す将来像**

- 圏域各市町が互いの魅力・可能性を掛け合わせ，多様な資源の価値を向上
- 函館市をヒト・モノ・産業が集積する拠点として強化
- 圏域全体の暮らしと経済の持続可能な実現

## 人口の将来展望

- 本圏域を取り巻く情勢は、全国平均を上回る人口減少率や、急速な高齢化、生産年齢人口の減少、これに伴う経済活動の停滞化など厳しい状況に置かれている。
- 国立社会保障・人口問題研究所（社人研）等の将来推計によると、函館市をはじめ圏域各市町において、今後も総人口の減少と高齢化率の上昇が進行する見通し。

### 【国立社会保障・人口問題研究所 令和5(2023)年推計より】

|    |    | 2020    | 2025    | 2030    | 2035    | 2040    | 2045    | 2050    |
|----|----|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 圏域 | 人口 | 413,767 | 380,980 | 351,507 | 322,095 | 293,094 | 265,048 | 238,638 |
|    | 指数 | 100.0   | 92.1    | 85.0    | 77.8    | 70.8    | 64.1    | 57.7    |
| 全道 | 指数 | 100.0   | 95.8    | 91.7    | 87.3    | 82.7    | 77.9    | 73.1    |
| 全国 | 指数 | 100.0   | 97.7    | 95.2    | 92.5    | 89.4    | 86.3    | 83.0    |

- 本ビジョンに基づく連携施策を集中的に展開し、人口減少のスピードを緩和し、圏域の活力を維持するための中長期的な目標値を設定。

### 【当圏域の人口ビジョン（※定住自立圏ビジョン掲載）より】

| 区分                 | 圏域内人口（人） | 高齢化率（％） |
|--------------------|----------|---------|
| 平成22年（2010年）（国勢調査） | 469,865  | 28.1    |
| 平成27年（2015年）（国勢調査） | 442,668  | 32.8    |
| 令和2年（2020年）（国勢調査）  | 413,767  | 36.3    |
| 令和22年（2040年）（目標）   | 320,000  | 40.0    |

※令和7年（2025年）（国勢調査） 378,512（令和8年速報値）

※令和7年（2025年）（社人研） 374,489（令和5年推計値）